

# 総合治水対策の 取組実績と効果



ながす



ためる



そなえる

平成30年5月

兵庫県総合治水課

## 総合治水対策の取組実績と効果について

平成24年4月に総合治水条例を施行し、これまでの河川や下水道の整備による「ながす」対策に加え、校庭やため池などを活用し雨水を一時的に貯留・浸透させ流出量を抑える「ためる」対策、浸水した場合でも被害を小さくする「そなえる」対策を組み合わせた『総合治水』を市町、県民と協働して取り組んできました。

県下11地域の地域総合治水推進計画に基づき進めてきた総合治水対策について、主な取組の実績と効果を、計画の中間年（策定から概ね5年）である平成29年度末にとりまとめました。

これまでの取組により、河川下水道対策の進捗や防災意識の向上が図られ、また570万 $\text{m}^3$ （東京ドーム約5杯分）の雨水貯留が可能になりました。

今後も引き続き、市町・県民等と協働して総合治水対策を進め、地域の安全と安心の向上に取り組んでいきます。

### （参考）

#### ■ 総合治水の日：毎年5月15日

総合治水の日とは、総合治水対策の意義・重要性を流域住民に対してアピールするための記念日です。総合治水の啓発活動を目的として1987年（昭和62年）に建設省（現国土交通省）により毎年5月15日と定められました。

#### ■ 総合治水推進週間 毎年5月15日～21日

総合治水対策の推進を図るための週間です。1991年（平成3年）に建設省（現国土交通省）によって制定されました。

# 総合治水対策の取組実績と効果



## ながす

---

■ながす対策の取組実績	1
■ながす対策の効果	
・武庫川（武田尾住宅地区）河川改修【阪神西部】	2
・市川河川改修【中播磨】	3
・船場川洪水調節池【中播磨】	4
・相原川（洲本市）河川改修【淡路】	5
・与布土ダム【但馬】	6



## ためる

---

■ためる対策の取組実績	7
■ためる対策の効果	
・西脇市黒田庄福地地区【東播磨・北播磨・丹波】	8
・相生市千尋地区【西播磨西部】	9
・豊岡市市街地地区【但馬】	10
・淡路島における「ため池」治水活用【淡路】	11
・中播磨地域における田んぼダムによる流出抑制【中播磨】	12



## そなえる

---

■そなえる対策の取組実績	13
■そなえる対策の効果	
・高校生による防災・減災に関する取組【阪神東部】	14
・ホットラインの取組【全県】	15
・西宮市における止水板設置助成の取組【阪神西部】	16
・神戸市地下街でのアンケート調査（神戸市）【神戸】	17
・減災対策等に関するアンケート調査 （豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町）【但馬】	18
■問合せ先	19

# ながす対策の取組実績

河川改修率は着実に進捗！



河川整備計画や市町による下水道計画に基づき、河川改修や下水道整備を進めています。

## ①河川対策

### 【河川改修】

- 千種川：千種川緊急河道対策約55km(佐用町・上郡町)  
：平成28年5月完了
- 武庫川：武田尾住宅地区溢水対策(護岸嵩上げ)  
平成30年3月完了
- 市川：河口から約10kmの河川改修(築堤,護岸,河床掘削)  
：平成29年5月完成 等



市川

### 【ダム建設】

- 与布土ダム(朝来市)：平成26年度完成  
洪水調節容量35万 $m^3$ 、洪水調節量 $\times 25m^3/s$
- 栗柄ダム(篠山市)：平成26年度完成  
洪水調節容量14.7万 $m^3$ 、洪水調節量 $\times 17m^3/s$
- 金出地ダム(上郡町)：平成29年度ダム本体完成  
洪水調節容量270万 $m^3$ 、洪水調節量 $\times 219m^3/s$

※ダムに洪水を貯めることにより、下流の河道に流れる量を減少させる量



金出地ダム(上郡町)

## ②下水道の整備

- 神戸市三宮南地区：3箇所のポンプ場整備を平成27年7月完成
- 西宮市甲東地区：富倉川雨水幹線の整備を平成29年6月完成
- 高砂市法華山谷川流域：間の川ポンプ場の整備を平成30年3月完成 等



京橋ポンプ場(神戸市)



間の川ポンプ場(高砂市)



**護岸・土地の嵩上げにより流下能力が大幅に向上!**  
~平成26年台風第11号と同等の降雨による浸水を解消~

## 概要

- ▶ 武庫川中流部の武田尾住宅地区は流下能力が低く、昭和58年、平成11年、平成16年、平成26年と度重なる被害に見舞われているなかで、住民の安心な生活環境を確保するため、護岸・土地の嵩上げ工事を平成28年度末に完成

## 位置図



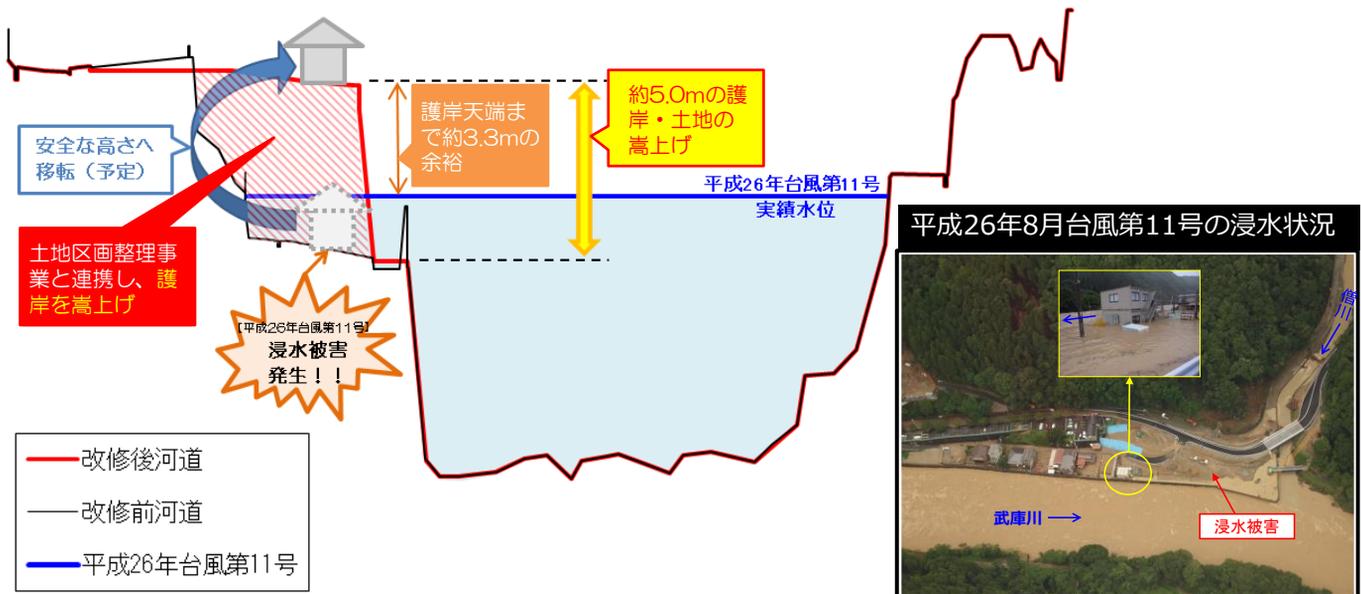
## 事業概要

戦後最大洪水と同規模の洪水を流すため、護岸・土地の嵩上げ(約5m)や支川僧川の付け替え等を実施



## 事業効果

- ▶ 浸水被害があった平成26年8月の台風第11号と同等の降雨に対して、護岸天端まで約3.3mの余裕を確保できるようになりました。



平成29年台風第18号では河川水位を0.7m低下！

## 概要

- JRの安全な運行や浸水被害を軽減するため、JR橋梁工区(L=600m)の低水路拡幅を、平成29年5月に完成

## 位置図



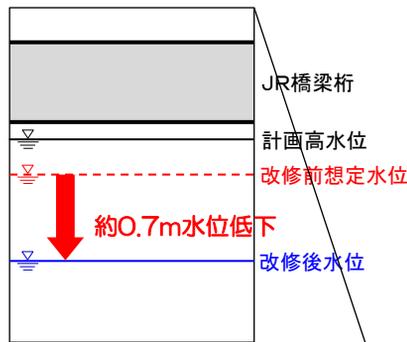
## 事業概要

年超過確率1/30規模の洪水による浸水被害を防ぐため河道改修を実施(河道の断面積が約1.1倍に拡大)



## 事業効果

JR橋梁箇所では平成29年台風第18号の降雨では、整備前に対して、水位が約0.7m低下し、増水による安全度が向上しました。



ほぼJR橋梁の桁下まで上昇

JR橋梁桁下まで約0.9mの余裕

河川断面拡幅

市川流域で台風に伴う集中豪雨を観測

単位(mm)

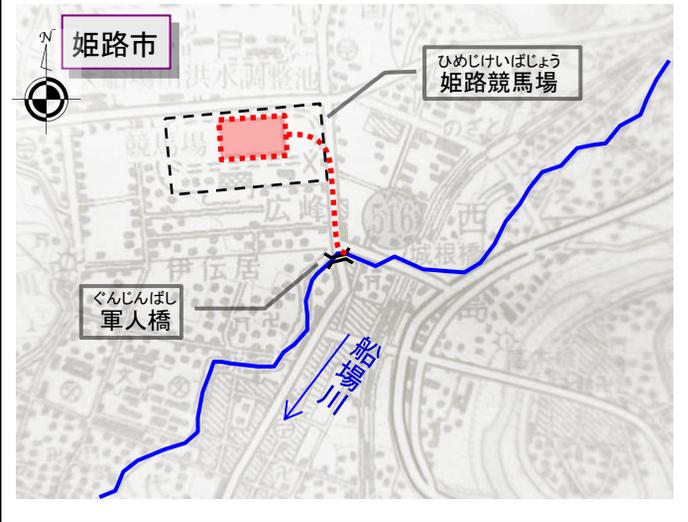
		平成29年9月 台風第18号
姫路 (姫路市)	時間最大	54
	3時間最大	98
	24時間最大	115
福崎 (福崎町)	時間最大	57
	3時間最大	114
	24時間最大	140
神崎 (神河町)	時間最大	44
	3時間最大	93
	24時間最大	120

洪水調節池整備により河川水位を低下！  
～平成16年台風第23号と同等の降雨による浸水を軽減～

## 概要

- 近年では平成16年10月の台風第23号により、床上浸水12戸、床下浸水167戸の浸水被害が発生
- 浸水被害を軽減するため、姫路競馬場に洪水調節池を整備（平成30年6月より貯留機能を開始予定）

## 位置図



## 事業概要

年超過確率1/15規模の洪水による浸水被害を防ぐため姫路競馬場内のグラウンドを掘り下げて12万m<sup>3</sup>を一時的に貯留できる洪水調節池を整備

常時



洪水時



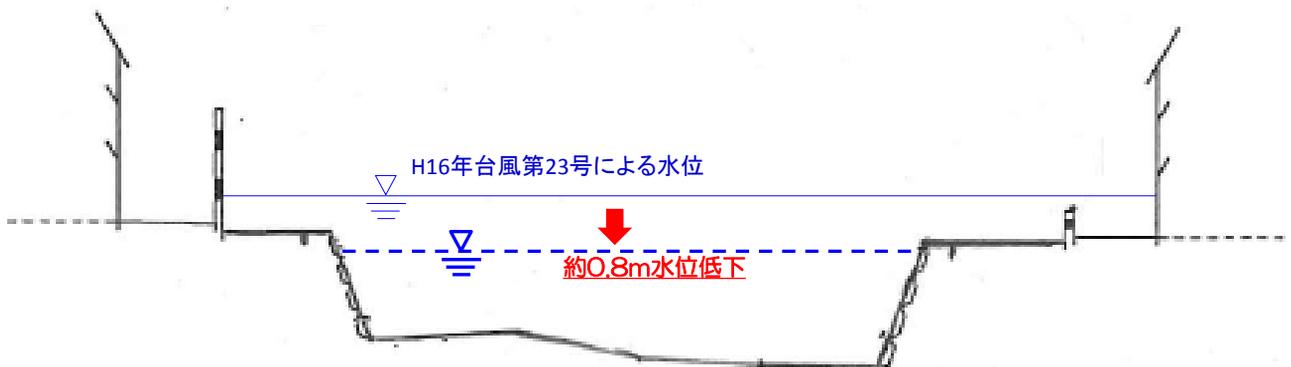
洪水貯留のイメージ



人家密集により川幅の拡大が困難な本川状況

## 事業効果

浸水被害のあった平成16年台風第23号と同等の降雨に対して、水位を約0.8m低下させることが期待でき、増水に対する安全度が向上します。

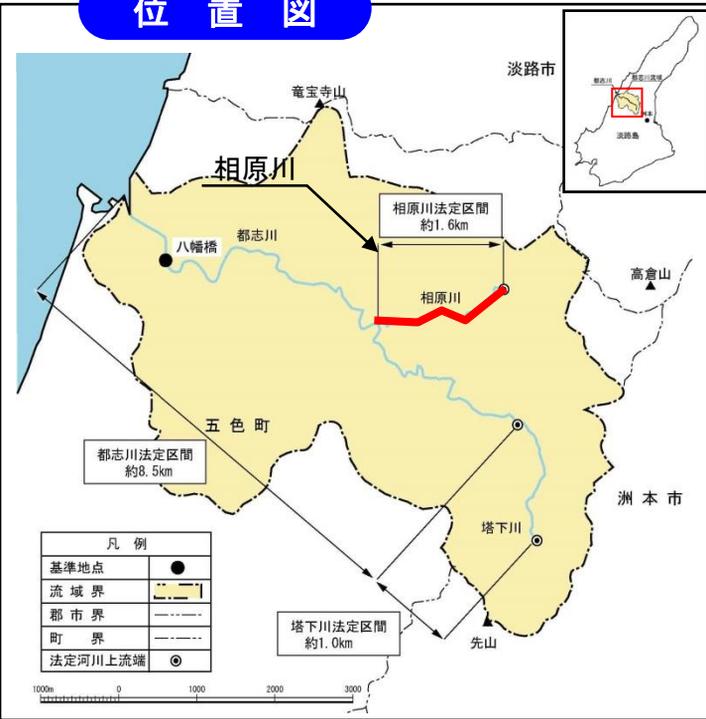


河川隧道（トンネル）の改修により流下能力を3倍にup！  
 ～平成26年台風第19号と同等の洪水を安全に流下～

概要

- 相原川隧道は、狭小な断面のため、隧道（トンネル）入口で水があふれ、洪水時に小学校校庭や神社の境内に河川水が流れ込み、浸水被害が発生
- 洪水を安全に流下させるため、相原川隧道改修工事を実施し、平成29年5月に完成

位置図



事業概要

相原川隧道（トンネル）改修工事  
 流下能力：75m<sup>3</sup>/s（従前の約3倍の流量）



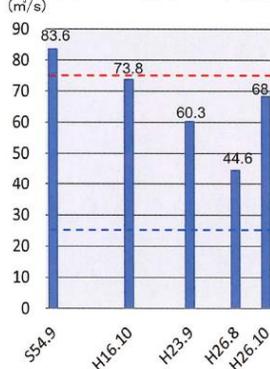
点線：隧道（トンネル）  
 実線：開水路



事業効果

浸水被害のあった平成16年の台風第23号や平成26年の豪雨と同等の降雨に対して、安全に流下できるようになりました。

流量 被災日と推定ピーク流量



75.0m<sup>3</sup>/s（新河道の流下能力）



流下能力  
 約3倍に向上

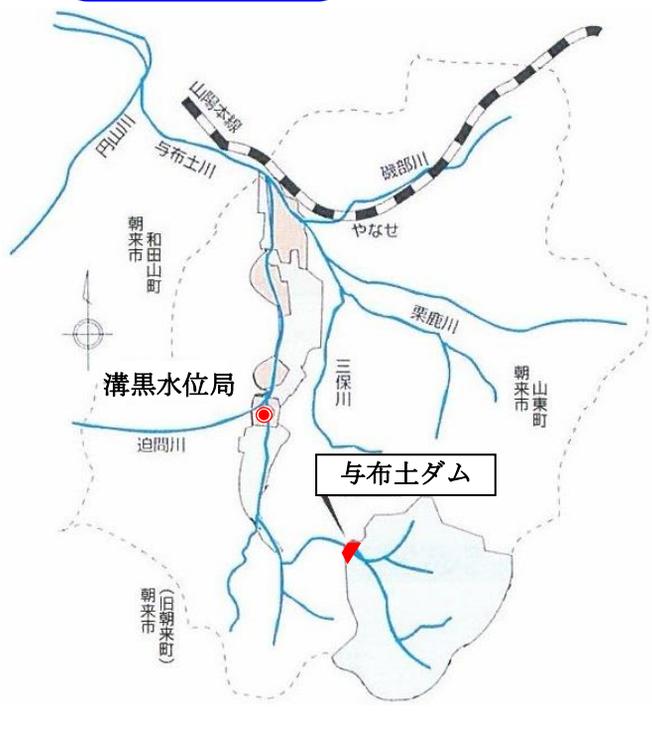
26.0m<sup>3</sup>/s 旧河道の流下能力

平成26年台風第19号では河川水位を30cm低下！

## 概要

- 与布土ダムは、下流の与布土川の洪水対策と、水道水源の確保を目的とした多目的ダムとして平成26年度に完成

## 位置図



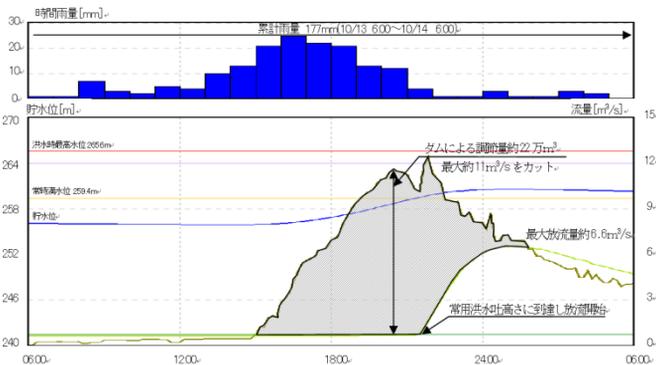
## 概要

形式：重力式コンクリート  
 堤高：54.4m  
 堤頂長：145.0m  
 総貯水容量：1,080千 $m^3$   
 洪水調節容量：350千 $m^3$   
 洪水調節量：25 $m^3/s$

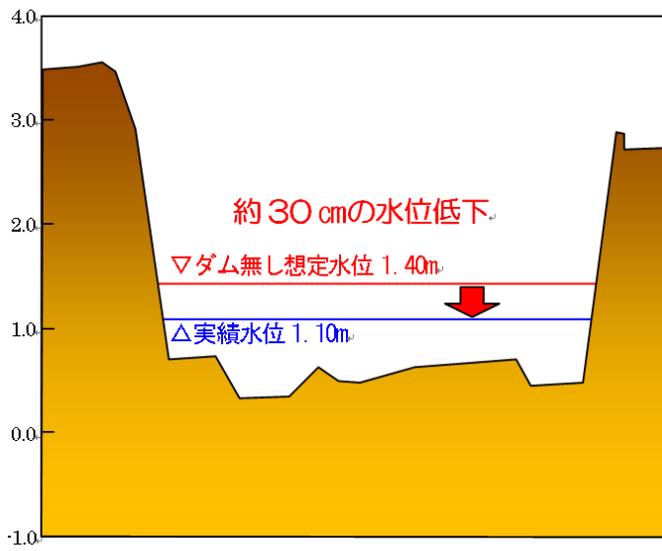


## 事業効果

平成26年の台風第19号による10月13日の豪雨時には、約22万 $m^3$ （25mプール約450杯分に相当）の洪水をダムに一時的に貯留することにより、与布土川（溝黒水位観測所）の水位を約30cm低下させました。



10月13日のダム地点の降雨量と洪水調節状況

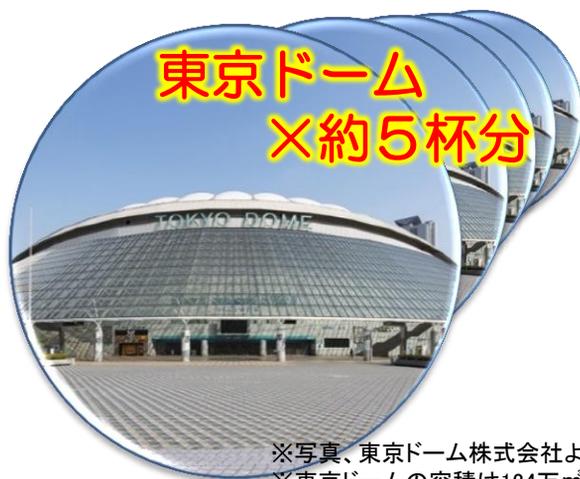


与布土川 溝黒水位観測所（朝来市）の断面

# ためる対策の取組実績

ためる対策により、東京ドーム約5杯分に当たる雨水貯留が可能に！

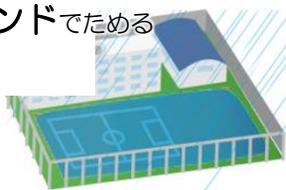
**雨水貯留可能量  
約570万m<sup>3</sup>**



**東京ドーム  
×約5杯分**

※写真、東京ドーム株式会社より  
※東京ドームの容積は124万m<sup>3</sup>

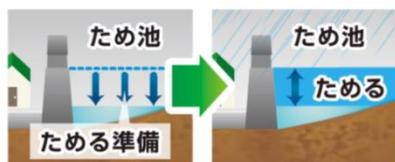
## ①グラウンドでためる



○校庭貯留 85校  
(県立13、市町立72) **210,400m<sup>3</sup>**

○公園貯留 11箇所  
(県立1、市町立10) **3,700m<sup>3</sup>**

## ②ため池でためる



○ため池貯留 7箇所 **204,000m<sup>3</sup>**

※1年を通して治水活用するため池

○ため池事前放流  
221箇所 **2,663,000m<sup>3</sup>**

※豪雨前の事前放流や台風期に期間放流するため池

## ③水田でためる



○水田貯留  
4400ha **2,200,000m<sup>3</sup>**

※340団体(34市町)に田んぼダム用セキ板20,600枚配布  
※セキ板高さ0.1m、転作率1/2として計算

## ④タンクでためる



○各戸貯留  
2,900基 **435m<sup>3</sup>**

※24市町の助成実績  
※150%/基として計算

## ⑤土や緑が減ったかわりに池をつくってためる



○重要調整池  
46箇所 **411,000m<sup>3</sup>**

※総合治水条例施行以降に1ha以上の開発にともなって設置した調整池

## ⑥森をまもってためる



○災害に強い森づくり事業  
13,300ha

※貯留量は算出しませんが、森林・里山整備は洪水防止・土砂の流出防止等の効果があります。

**計 5,692,535m<sup>3</sup>**

その他、透水性舗装、雨水浸透ます、地下貯留、駐車場貯留等の取組を行っています。

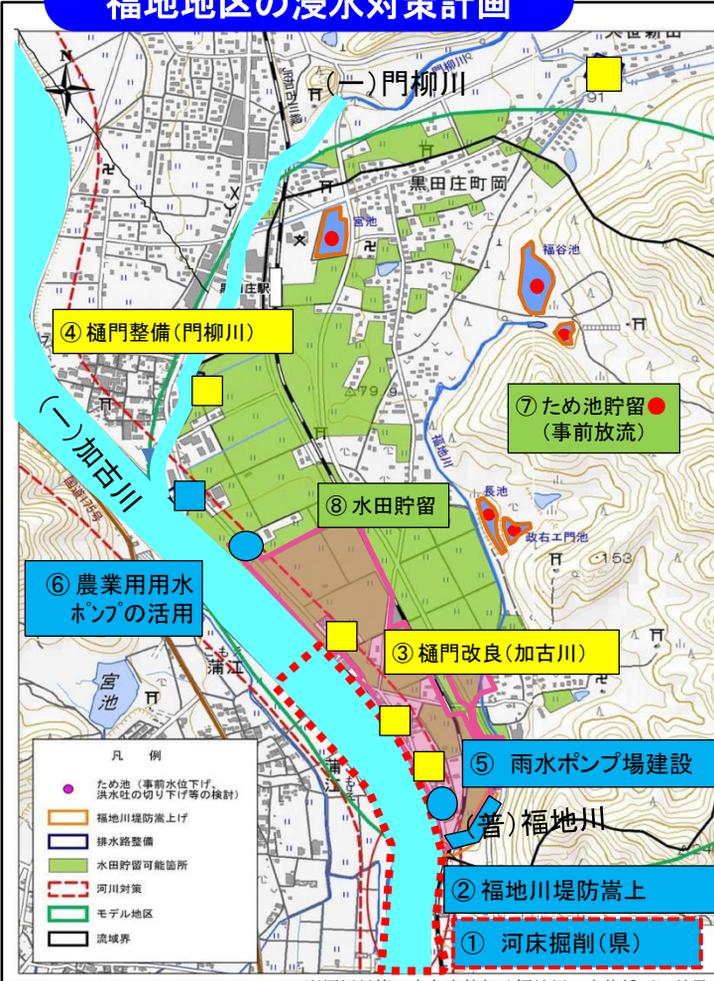


「ながす」と「ためる」対策により、平成29年台風第21号では浸水被害ゼロに！

## 概要

- 西脇市黒田庄福地地区では、平成25年台風第18号で、約20haが浸水し、道路やJR線路の冠水のほか、住宅では床上浸水4戸、床下浸水31戸と大きな被害が発生
- このため、「ながす」と「ためる」をあわせた浸水対策計画を策定し、平成28年度に整備を完了

## 福地地区の浸水対策計画



年月日	平成25年	平成29年
	台風第18号	台風第21号
加古川の水位	HWL+0.7m 65.20m	HWL+0.0m 64.50
河川と内水位差	±0.0m	-1.1m
福地樋門操作	有り	無し
樋門閉鎖時間	9時間	9.5時間(想定)
福地の総雨量	33mm	30mm
床上浸水(戸)	4戸	0戸
床下浸水(戸)	31戸	0戸
浸水面積(ha)	約20ha	0ha
冠水量	約132,000m <sup>3</sup>	無(水田貯留)
その他の冠水	道路、JR冠水	無

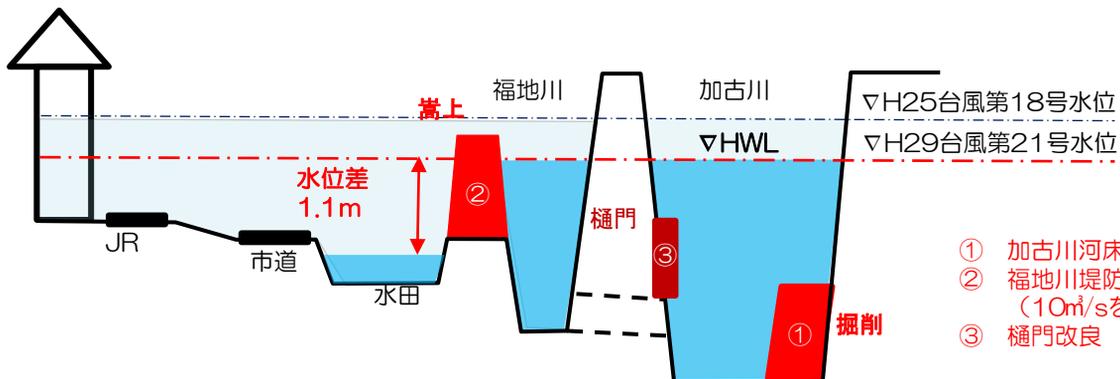
浸水なし



平成25年台風18号の浸水状況

## 事業効果

浸水被害のあった平成25年の台風第18号と同程度の雨量であった平成29年の台風第21号時には、住宅の浸水、JR・道路部の冠水は「ゼロ」になりました。



- ① 加古川河床掘削 河川水位低下
- ② 福地川堤防嵩上1.5m (10m/sを自然流下可能)
- ③ 樋門改良

「ながす」対策と「ためる」対策により、内水被害を減少！  
 ～平成24年7月豪雨と同規模の降雨による浸水被害を解消～

## 概要

- 相生市千尋地区では、平成24年7月6～7日にかけて発生した1時間約50mmの集中豪雨により、内水被害が発生
- このため、下水道対策とためる対策をあわせた整備を進め平成30年6月に完了予定

## 位置図



## 整備内容

### ■河川下水道対策

対策	内容	取組主体
下水道	雨水幹線の整備	相生市

### ■流域対策

対策	内容	取組主体
ため池	新池の整備	相生市
校庭貯留	相生産業高等学校の校庭貯留の整備	県

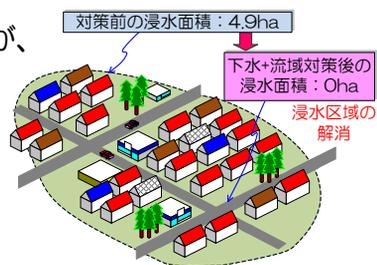
## 対策による効果は？

【① 1時間約50mmの降雨量（H24年7月実績降雨）】

約4.9haの浸水面積が、  
対策によりゼロに！

**浸水解消！**

浸水区域の縮減イメージ



【② 1時間約60mmの降雨量（1/30確率降雨）】

約5.8haの浸水面積が、  
対策により0.9haに！

**大幅に減少！**

浸水区域の縮減イメージ

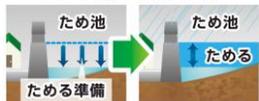


## 事業効果

### 貯められる雨水の量は？

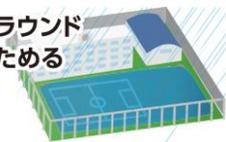
【新池】

ため池でためる



【相生産業高等学校】

グラウンド  
でためる



最大3,000m<sup>3</sup>を貯留



相生市立温水プール  
 (25mプール)×6杯分  
 相当

最大1,276m<sup>3</sup>を貯留



相生市立温水プール  
 (25mプール)×2.5杯分  
 相当

※相生市立温水プール：  
 25m×17m×1.2m=510m<sup>3</sup>

（参考）効果の算定方法

下水道整備や、校庭貯留、ため池での貯留による効果を、次の①、②の豪雨が発生した場合における、浸水面積の縮減割合で評価

- ① 1時間約50mmの降雨量(平成24年7月実績降雨)
- ② 1時間約60mmの降雨量(1/30年確率降雨)



# 豊岡市市街地地区

但馬（円山川等）地域総合治水推進協議会

駐車場地下貯留と校庭貯留を組み合わせ、周辺市街地の浸水を減少！  
～5年に1回程度の降雨（40mm/h）による浸水を解消～

## 概要

- 豊岡総合庁舎周辺では、ゲリラ豪雨による庁舎前市道等の浸水被害がたびたび発生
- このため、豊岡総合庁舎と隣接する豊岡総合高校で、ためる対策を進め平成30年3月完成

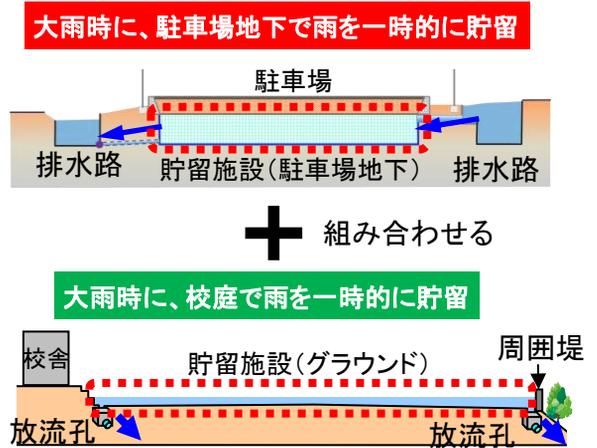
## 位置図



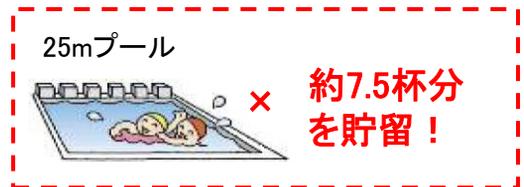
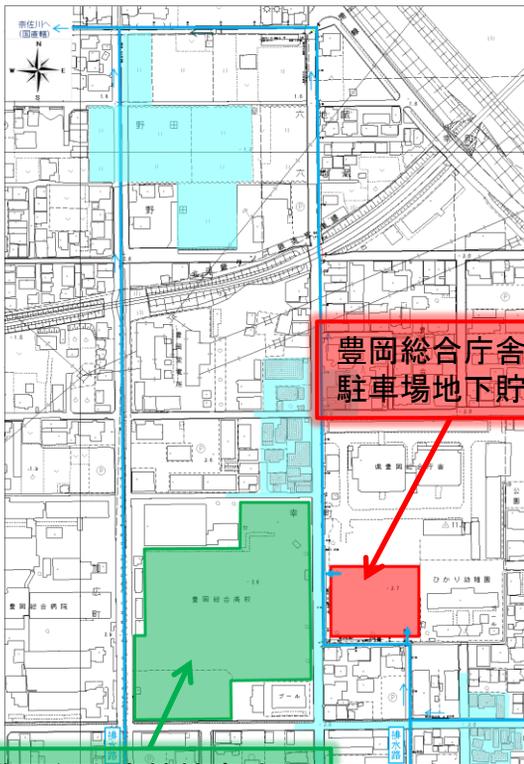
## 整備内容

豊岡総合庁舎駐車場地下貯留(1,800m<sup>3</sup>)  
豊岡総合高校校庭貯留(900m<sup>3</sup>)

### イメージ図



## 事業効果



このエリアにおいて、5年に1回程度の大雨(40mm/h)による浸水を解消！

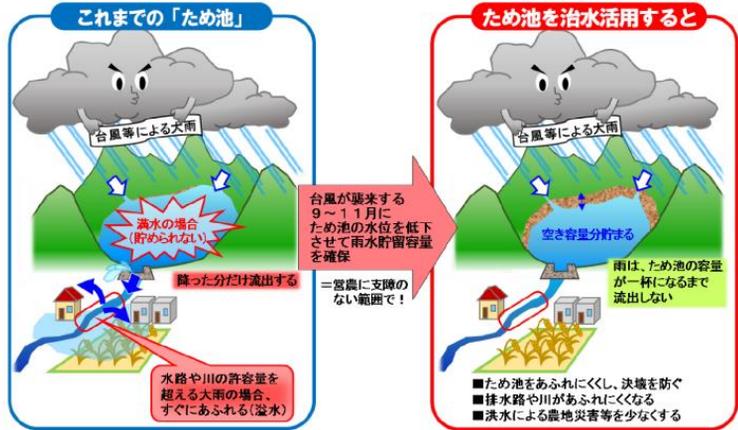




ため池の治水活用により、平成28年台風第16号では、洲本川の水位を11cm低下！

## 概要

- ▶ 日本一「ため池」が密集している淡路島（約2万3千カ所）では、過去の災害時には多くの「ため池」が決壊し、下流で大きな被害も発生
- ▶ 淡路県民局では、ため池の「雨水の一時貯留機能（洪水調整機能）」を最大限発揮させる取組をH27年度から本格的に展開

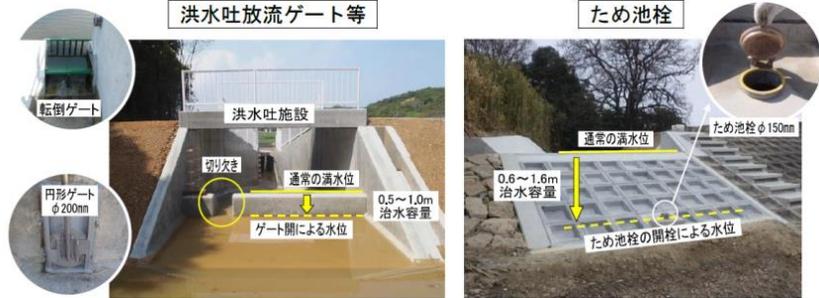


## 取組の概要

### ■事前放流施設の整備

管理者が取り組みやすい構造（一度、開けるだけで操作不要）とするため

- ①ため池改修事業と併せた整備
- ②治水効果の高いため池での単独整備
- ③災害復旧と併せた整備 を推進



### ■事前放流の普及啓発

#### ①管理者への事前放流の呼びかけ

台風前に関係市のCATV、防災無線、電話等により、管理者へ事前放流の周知・依頼

#### ②「淡路ため池管理者防災ネット」によるメール配信

登録した管理者の携帯へ、台風前の事前放流依頼、通過後の施設点検、その他管理情報等をメールで配信

[H28 末登録数：250人（特定ため池管理者の約1/4）]

#### 【登録方法】

QRコードを読み取る →  
又は at@bosai.net へ  
空メールを送信すれば  
返信があり登録可



#### ③管理者講習会の開催

管理者の適正管理に向けた講習会において、事前放流の意義や効果を啓発  
分かりやすい模型による説明→



#### ④かいぼりの復活

かいぼり（池干し）を復活し、9月以降の落水を拡大するとともに貯水量の増加、施設点検、豊かな海づくり等を促進



## 事業効果

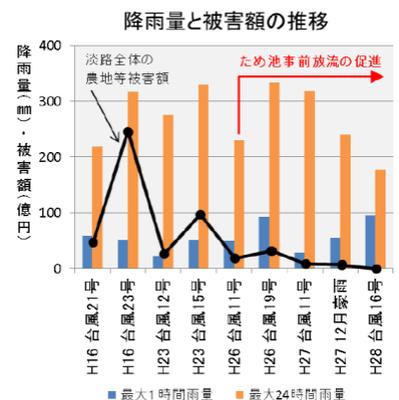
### ■台風時の河川水位の低減

平成28年9月の台風16号では、最大1時間雨量95mm（洲本観測所歴代2位）を記録するなど豪雨が発生した。

洲本川では、ため池の事前放流等により、特定ため池165箇所の貯留により、桑間地点で11cm水位を低減したと推測される。

### ■農地災害等の低減

過去に大災害をもたらした規模の降雨はあるが、事前放流開始の平成25年度から、農地・農業用施設災害は年々、減少傾向にある。





# 中播磨地域における田んぼダムによる流出抑制

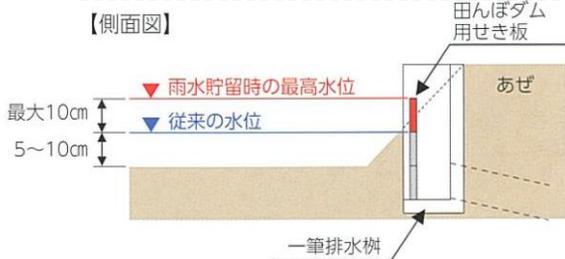
中播磨（市川流域圏）地域総合治水推進協議会

田んぼダム(3,000m<sup>3</sup>)により約190m<sup>3</sup>の雨水の流出を抑制！

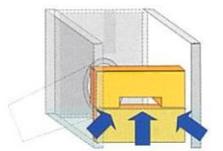
## 概要

▶ 田んぼダム用堰板の効果을把握するために、模型を用いた実験を実施し、流出抑制効果を試算

既存の堰板の上に、「田んぼダム用堰板」を設置することで、普通の雨は切欠きから排水され、激しい雨の時には、水位が上昇し、堰板から越流して排水されます。

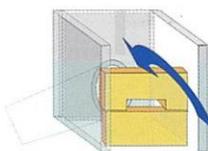


【普通の雨】



切欠きから排水

【激しい雨】



一時的に水位が上がりせき板を越流し排水

※田んぼダムとは、通常の排水柵に田んぼダム用堰板を設置することで、雨水を一時的に田んぼに貯留するもの

## 事業効果

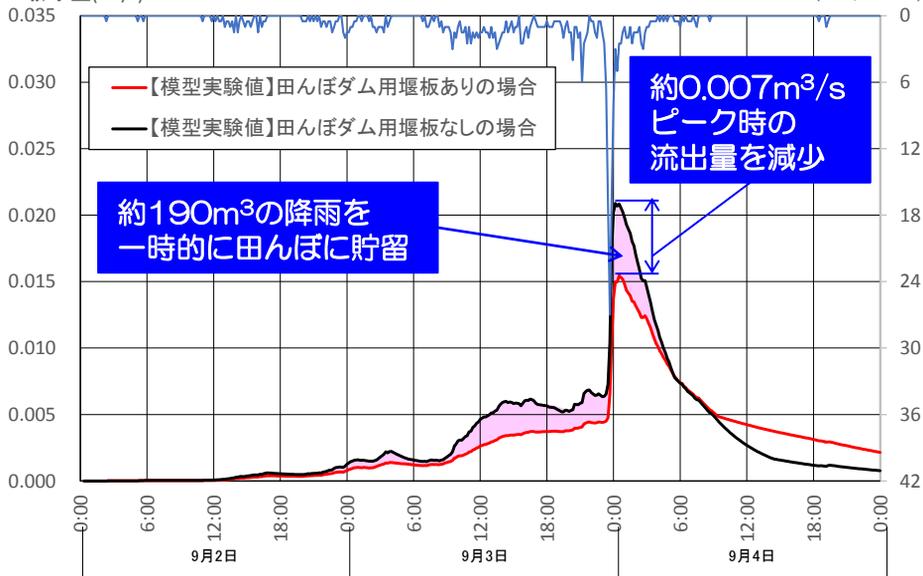
【平成23年台風第12号における流出抑制効果の試算結果】

・田んぼダムを整備することで、標準区画である3000m<sup>2</sup>の田んぼにおいて、約190m<sup>3</sup>の降雨を田んぼに一時的に貯留し(25mプールの約1/2の水)、ピーク時における降雨流出を約0.007m<sup>3</sup>/s低下させます。



田んぼダムの取組が普及することで、地先水路の水位低下等により浸水被害軽減の効果が期待できる。

平成23年台風12号(2011年9月3,4日)実績降雨  
排水量(m<sup>3</sup>/s)



(平成23年台風第12号におけるピーク水深)  
・田んぼダム用堰板を設置した場合：約22cm  
・田んぼダム用堰板を設置しない場合：約17cm

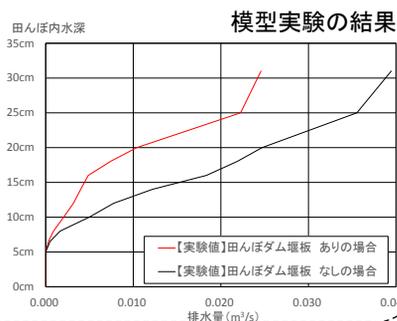
※平成23年台風12号における降雨は、気象庁姫路測候所における日最大1時間降水量において観測史上最大(1948年2月～2018年2月)の降雨である。

## 参考(模型実験)

- ・田んぼダム用堰板を設置した場合と設置しない場合において、排水実験を実施。
- ・一筆排水柵からの排水量を実験結果より算定し、田んぼ内の水深と排水量の関係を整理。

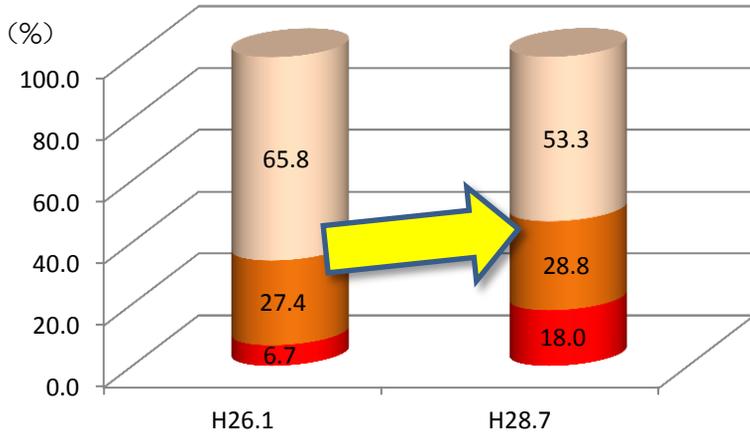


模型実験の様子



# そなえる対策の取組実績

総合治水の認知度は少しずつではあるが着実にUP！



- 知らない
- 言葉は知っているが、内容は知らない
- 言葉も内容も知っている

総合治水の認知度(県民モニターアンケート調査結果より)

## ①身近にある危険を知る

### 【災害危険情報の発信】

- 平常時からの情報発信
  - ・ CGハザードマップ(インターネット)
  - (県下全685河川のハザードマップを公表)
  - ・ 県下全41市町でハザードマップを作成・配布
- 洪水時の情報発信
  - ・ 198箇所の河川水位情報(インターネット・TV※)
  - ・ 303箇所の雨量情報(インターネット・TV※)
  - ・ 95河川134箇所の河川画像(インターネット・TV※)

※TVは一部の箇所

### 【インターネットからの情報入手方法】

- ア 河川水位・雨量  
水位局198箇所、雨量局303箇所の観測情報
- イ 河川監視カメラ  
95河川134箇所の河川画像(水防上重要な箇所、本川・主な支川の upstream 部等)
- ウ 洪水ハザードマップ  
県下全685河川の浸水想定区域図
- その他【防災学習】  
避難時の留意点等を学習

CGハザードマップ

### 【防災知識の普及啓発】

- 県及び市町で約2000回の出前講座等を実施
- 約750の自治会で手づくりハザードマップを作成



模型を使った出前講座



高校での出前講座



手づくりハザードマップ作成状況

## ②災害時にすばやく行動する

### 【防災対応能力の向上】

- 県及び市町で防災訓練等を毎年度実施
- 県と市町で、河川情報などを市町長等へ直接伝えるホットラインを構築

## ③浸水被害を軽減させる

### 【建物等の耐水機能】

- 公共施設11箇所で敷地嵩上げ、遮水壁、電気設備の高所設置等を実施  
(兵庫県立尼崎総合医療センター、南あわじ市役所等)

その他、ひょうご防災ネットによる情報発信、防災行政無線の整備、フェニックス共済への加入促進等の取組を行っています。



高校生のさまざまな防災・減災に関する取組により、地域防災力が向上！

## 概要

- 兵庫県立尼崎小田高等学校の生徒が、防災・減災に関する取組を実施
  - ・テーマ:「防災・減災に強いまちづくりー高校生にできること」
  - ・目的:「地域のコミュニティづくり『災害が発生した時に地域コミュニティと学校が協力できる関係の構築をめざす』」

## 取組内容

### ○地域住民と連携した机上訓練

- ・災害対応の場面を平常時から想定するために、地域・行政と連携した机上訓練を実施。
  - 災害図上訓練(DIG):災害の発生を想定し、避難所や危険箇所、避難経路等を地図に記載。
  - 避難所運営訓練(HUG):カードを用いて、避難所で起こりうる出来事への模擬体験を実施。
  - クロスロードゲーム:災害に関する質問に「YES」または「No」で回答し、様々な意見や価値観を参加者で共有。

### ○GISを使用した地域防災マップの作成

- ・高校生が中心となり、地域住民、尼崎市、兵庫県立大学減災復興政策研究科、民間企業[地図アプリ提供]と共同で実施。
- ・高校生と地域住民、大学院生等と一緒にGISを使用しながらまちを歩き、危険な箇所を確認し、マップに記載し、地域住民の方の個別の防災マップを作成。

### ○小学校における防災教育の企画・運営

- ・小学6年生でも避難所で人助けができるように、「段ボールを使ったベッドの作り方」、「毛布と棒を使った担架の作り方」等を体験するとともに、防災エプロンシアターを実施し、防災について学習。



災害図上訓練の状況



GIS(地理情報システム)を活用したまち歩きの状況



防災教育(立花西小学校6年生)

## 取組結果

- 地域コミュニティづくりにより地域防災力の向上が期待されます
- 生徒の防災意識の向上により、地域防災の担い手として期待されます

### 【生徒の感想】

- ・災害時には、特に自助と共助が大事である。自助や共助を行うためには自分自身がその場の状況を確認し、行動を起こし、それが何百、何千という人が行えば、ものすごい救助になると思う。
- ・地域の方々と交流する機会はとても大切で、地域の活性化に繋がり、いざというときの緊急事態にも地域ぐるみで対応することができる。交流により地域の防災の意識が高まっていけば減災対策も可能になる。
- ・自分の住む地域でも地域コミュニティの輪を広げることができる機会があれば積極的に参加したい。
- ・福祉避難所では、職員だけでは全員を速やかに避難させることができないので、私達高校生など地域に住んでいる若い人がボランティアに行くことが大事である。
- ・私達高校生が主催者として防災イベントを開くことはすごくいいことであると思った。
- ・防災教育で小学生が「〇〇することが大切だと分かりました」や「家に帰って〇〇しようと思います」などと楽しみながら、防災について想像以上に学んでくれたことが嬉しく、自分達の活動の意義が認識できた。



首長等とのホットラインにより、適切な避難勧告の発令に寄与！

## 概要

- 兵庫県では、平成29年出水期(6月)までに全40市町とホットラインを構築
- 平成29年度は、4度の出水※でホットラインを実施
- 計9市町と情報交換を含むホットラインのべ38回実施し、7回の避難勧告を支援

※①8月14日～21日の豪雨 ②9月14日～18日の台風第18号  
③10月19日～23日の台風第21号 ④3月5日の豪雨

## 取組内容

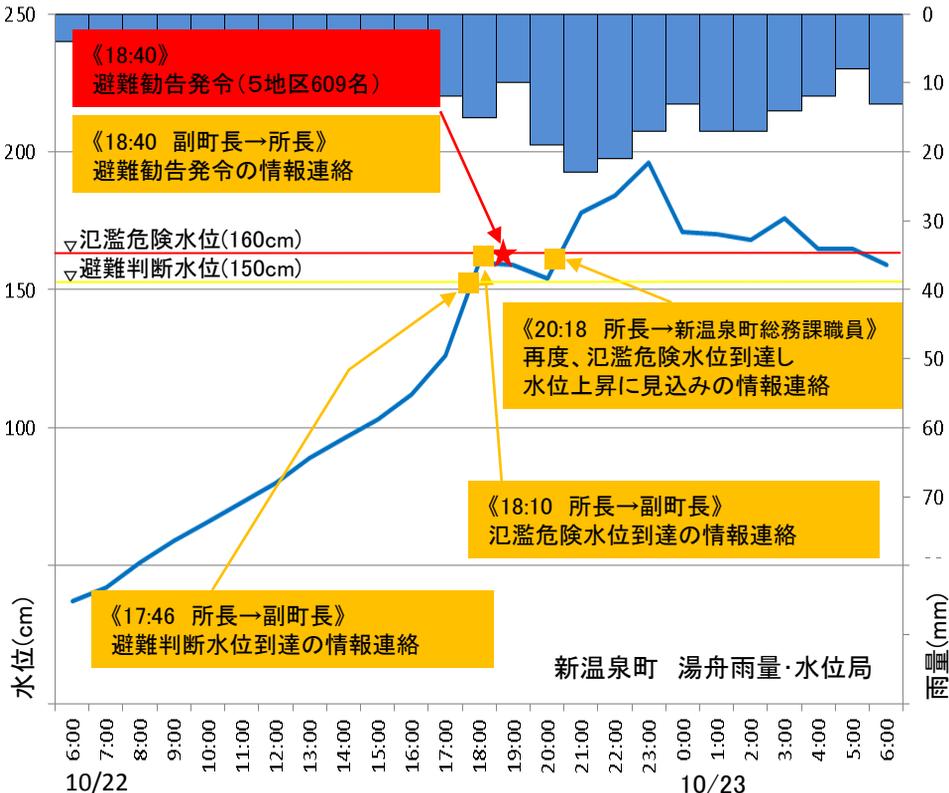
平成29年10月22日台風第21号時のホットライン実施状況  
(新温泉土木⇄新温泉町)

### ■ 気象状況

台風第21号の接近に伴い、10月21日から降り始めた雨は、総雨量300mm超を観測。

### ■ ホットライン実施状況

台風第21号時には、5水位局の地域でホットラインを実施し、円滑な避難勧告の発令に繋がった。



## 取組結果

- 首長等とのホットラインにより、円滑な避難勧告の発令を支援
- 県からの水位情報だけでなく、市町の体制状況の連絡もあり、情報交換の体制が確立された。

### 【ホットライン実施による首長意見】

- ・県土木事務所からのホットラインは有効である。
- ・避難勧告発令の参考になる。等



# 西宮市における止水板設置助成の取組

阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会

止水版を設置する市民等に対し助成制度を設けることで、  
建物内部への浸水被害の軽減や自助による水害への備えの啓発を図る！

## 取組内容

- 西宮市では、現在、10年確率降雨に対応できるよう下水道施設の整備を進めているが、事業完了まではまだまだ長い時間が必要
- 西宮市では、西宮市止水版設置助成金交付要綱に基づき、建物に止水版を設置しようとする場合に、設置にかかる費用の一部を予算の範囲内において助成する制度を実施

助成対象施設：西宮市公共下水道共用区域内の建物で、平成28年5月1日より前に建築確認概要書が提出されている建物

助成内容：止水版の購入から設置にかかる費用の1/2の額(上限50万円)を助成。

事業開始年：平成28年5月1日

受付期間：毎年4月1日～翌年1月31日まで

## 止水版設置助成制度のポスター

**床上・床下浸水に備えませんか**

**止水版設置助成制度のご案内**

西宮市では、止水版（防水板）設置、及び止水版設置に関連する工事に対する費用を助成しています。  
この制度は、想定を上回る豪雨などによる床上・床下浸水の被害の軽減を図るとともに、水害に対する理解を深め、災害に備えるきっかけになることを目的に行っています。

申請受付期間：平成29年4月1日～平成30年1月31日

止水版は、家に侵入しようとする雨水を防いでくれるよ！！

**【助成の内容】**

- 購入費と工事費の合計額の2分の1（1,000円未満は切り捨て）、ただし、申請1件当たりの助成限度額は500,000円

**【申請手続きの注意点】**

- 申請を受け付けて市が承認した後に購入・設置したものが助成対象となります。申請前に購入・設置工事を行った場合は、助成対象とはなりません。
- 申請金額が予算に達した時点で受付を終了とさせていただきます。
- 詳しくは西宮市のホームページ（<http://www.nishinor.jp>）をご覧ください。（くらしの情報 → 水道・下水道 → 上下水道料金等）

ご不明な点等、お問合せは下水計画課まで（TEL 0798・32・2265）

## 取組効果

- 想定を上回る豪雨などによる床上・床下浸水の被害軽減を図る。
- 水害に対する理解を高め、自助による水害への備えの啓発となる。

助成実績：2件  
(平成29年12月末時点)

止水版への助成制度



兵庫県内では初の取組！！

## 実施例



止水版



# 神戸市地下街でのアンケート調査（神戸市）

神戸（表六甲河川）地域総合治水推進協議会

避難訓練や研修による、浸水時避難確保・浸水防止計画の認知度向上効果は大きい。防災意識向上と、経年変化を把握する目的で、今後も定期的に調査を実施します。

## 位置図



## 概要

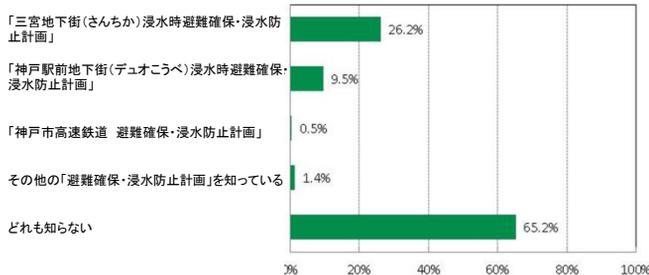
- 三ノ宮から神戸駅間の地下空間を含む地区では、神戸地下街株式会社が、デュオこうべと三宮地下街の浸水時避難確保・浸水防止計画を作成
- 災害時において、地下街を訪れる不特定多数の人々を助け、避難の流れを作り出す重要な担い手となる地下街の店舗で働く方々を対象に、減災対策についてのアンケート調査を実施

## 調査内容

調査期間：H29.12/8～12/22  
 対象：三宮地下街（さんちか）、デュオこうべ、さんセンタープラザ（地下店舗）の従業員（アルバイト、パート含む）  
 配布数：828件（各店舗に3部配布）  
 回収率：26%

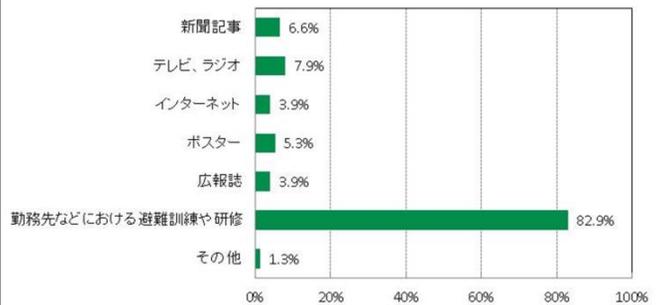
## 『避難確保・浸水防止計画』の認知度

「避難確保・浸水防止計画（以下、避難計画）」に対する認知度は、「さんちか」が約26%、「デュオこうべ」は約10%でともに低い。



## 避難計画を認知したきっかけ

避難計画を認知したきっかけは、「勤務先における避難訓練や研修」が約83%と非常に高い。



## 地下空間の浸水対策実施状況

- 地下空間における浸水対策としては、「地下空間における防災訓練などへの参加」が約32%と最も多い。



地下空間における避難確保・浸水防止計画に対する認知度の向上及び浸水対策としては、防災訓練（水防・避難訓練等）が有効であることが分かった。

## 自由意見

- このアンケートにより考える意識が出た。
- 神戸の地域総合治水推進計画を今日インターネットで確認した。



防災意識が深まる効果があることが分かった。

## これからの取り組み

- 店舗で働く人は、入れ替わりが早いので、定期的、継続的に防災意識を高める取り組みを行うことが大事。
- 避難訓練や研修による「避難確保・浸水防止計画」の認知度向上の効果が大きいため、警察や消防、神戸市、自衛組織などの関係機関と連携して、避難訓練や研修を継続して実施する。
- アンケート調査を行うこと自体がPRになるので、総合治水に対する認識を深めるため、また、認識の経年変化を把握する意味でも、今後、定期的にアンケート調査を行っていく。



## 総合治水が徐々に浸透。今後も継続的に総合治水の普及啓発を行う！

### 概要

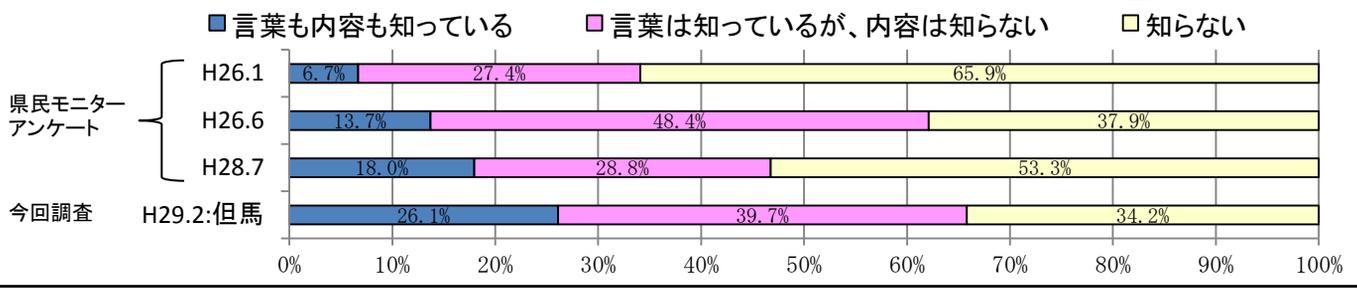
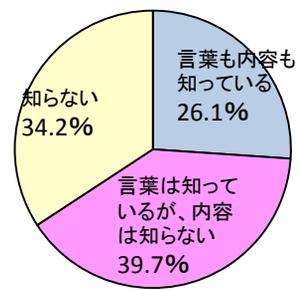
- ・但馬地域では、平成26年度に但馬(円山川等)地域総合治水推進計画を策定し、「ためる」「ながす」「そなえる」の取組を総合的に推進
- ・計画策定から4年間の普及効果の検証として、現在の認知状況等を調査

### 調査内容

- 対象者: 但馬地域(豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町)の区長、自治会長 857人
- 調査機関: 平成30年2月3日～2月28日
- 回答者数: 652人(回収率76.1%)

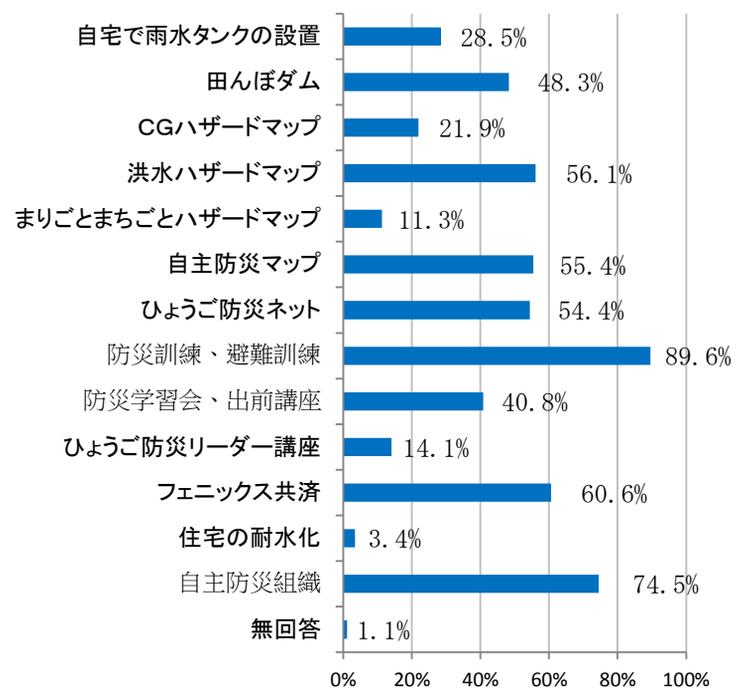
### Q. 「総合治水」を知っていますか？

- ◆ 「総合治水」を知っている割合は26.1%と、H28.7に実施された県民モニターアンケート結果(18.0%)よりも高い数値であった。
- ◆ 但馬地域では、平成16年23号台風の被災経験により、水害への意識が高いことから、「総合治水」の浸透が進んでいると考えられる。
- ◆ 市町別に見ると、モデル地区が含まれる豊岡市、養父市、香美町で地域全体よりも認知度が高くなっていることが分かった。



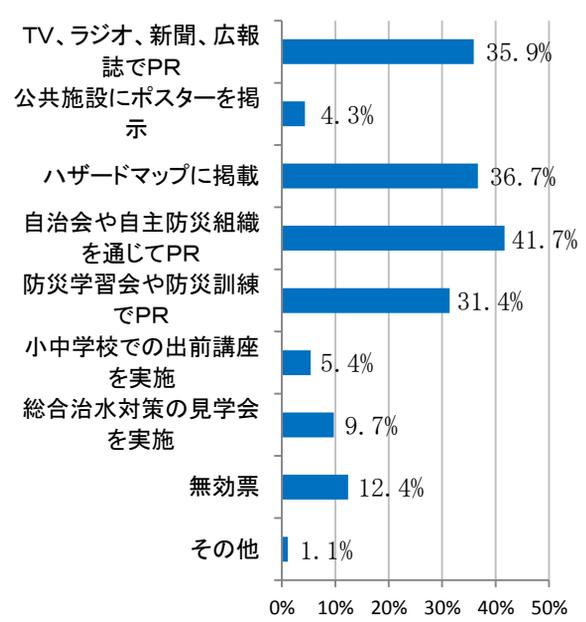
### Q. 総合治水の取組みで知ってるものは？

- ◆ 防災訓練や自主防災組織など地区毎の取組みの認知度が高い。洪水ハザードマップや自主防災マップの認知度(約55%)に比べCGハザードマップの認知度は21.9%と低く、さらなるPRが課題である。



### Q. 総合治水の取組みを広めるには？

- ◆ TV等での広報や、ハザードマップに掲載するなど、行政からのより積極的な情報発信が求められている。
- ◆ 自治会を通じてや学習会等でのPRのポイントが高く、地域単位のPRが効果的であると考えられている。





○本資料以外にも、各地域の取組実績や対策効果について、各地域総合治水推進協議会のホームページで取りまとめています。

○総合治水対策の問い合わせ先は以下のとおりです。

地域総合治水推進協議会名	問合せ先
1. 神戸(表六甲河川)	神戸県民センター 神戸土木事務所 企画調整担当 (TEL:078-737-2382)
2. 阪神西部(武庫川流域圏)	阪神南県民センター 西宮土木事務所 企画調整担当 (TEL:0798-39-1540)
3. 阪神東部(猪名川流域圏)	阪神北県民局 宝塚土木事務所 企画調整担当 (TEL:0797-83-3178)
4. 神明(明石川等)	東播磨県民局 加古川土木事務所 企画調整担当 (TEL:079-421-9183)
5. 東播磨・北播磨・丹波 (加古川流域圏)	北播磨県民局 加東土木事務所 企画調整担当 (TEL:0795-42-9382)
6. 中播磨(市川流域圏)	中播磨県民センター 姫路土木事務所 企画調整担当 (TEL:079-281-9441)
7. 西播磨東部(揖保川流域圏)	西播磨県民局 光都土木事務所 企画調整担当 (TEL:0791-58-2229)
8. 西播磨西部(千種川流域圏)	西播磨県民局 光都土木事務所 企画調整担当 (TEL:0791-58-2229)
9. 但馬(円山川流域圏)	但馬県民局 豊岡土木事務所 企画調整担当 (TEL:0796-26-3734)
10. 丹波東部(竹田川流域圏)	丹波県民局 丹波土木事務所 企画調整担当 (TEL:0795-73-3828)
11. 淡路(三原川等)	淡路県民局 洲本土木事務所 企画調整担当 (0799-26-3221)

## 地域総合治水推進計画

○各地域の特性やニーズに合わせて、その地域にふさわしい総合治水の取組をまとめた計画で、県下11地域に分割して策定しています。

○計画には基本的な目標や方針、ながす・ためる・そなえる10カ年の取組、環境の保全と創造への配慮等を記載しています。

○県民、学識経験者等からなる「地域総合治水推進協議会」において、広く県民の意見を聴いた上で策定・見直しを行います。

### 〈計画地域の名称、地域に属する代表的な河川及び市町〉

① 神戸	新湊川(神戸市)	⑦ 西播磨東部	揖保川(たつの市、宍粟市他)
② 阪神西部	武庫川(尼崎市、西宮市他)	⑧ 西播磨西部	千種川(赤穂市、佐用町他)
③ 阪神東部	猪名川(尼崎市、伊丹市他)	⑨ 但馬	円山川(豊岡市、美父市他)
④ 神明	明石川(神戸市、明石市)	⑩ 丹波東部	竹田川(篠山市、丹波市)
⑤ 東播磨 ・北播磨・丹波	加古川(加古川市、西脇市他)	⑪ 淡路	三原川(洲本市、淡路市他)
⑥ 中播磨	市川(姫路市、市川町他)		

### 〈計画地域〉

